

ベトナム国立農業大学と筑波大学が高温耐性トマト開発する国際共同研究に着手

筑波大学の江面浩教授（遺伝子実験センター長）らの研究チームは、ベトナム国立農業大学（VNUA）の Nguyen Hong Minh Minh 准教授らの研究チームと熱帯・亜熱帯など高温地域で安定栽培できるトマトの開発に着手しました。本共同研究では筑波大学が保有するトマトの大規模変異体集団から選抜した単為結果性、日持ち性に優れた変異体を提供し、ベトナムのトマト系統に導入します。数年後には高温地域で安定栽培できる共同開発品種が開発されるものと期待されます。トマトは、ベトナムなど高温地域での栽培が増えていますが、着果不良や日持ち性の短さが課題となっています。本国際共同研究成果は、高温地域でのトマト栽培の安定化、引いては食料の安定確保に貢献できるものと研究チームは期待しています。今回の国際共同研究には、ベトナムでアグリ事業を展開する我が国の企業からも大きな期待が寄せられています。



1 枚目：研究代表者の江面浩教授（左）と Minh 准教授（右）

2 枚目：国際共同研究に関わる筑波大メンバー、ベトナム国立農業大学メンバー、ベトナムでアグリ事業を展開する日本企業メンバー